

地球規模のリスクに立ち向かう地域研究

ウクライナ危機に 多角的に迫る

令和4(2022)年2月24日のロシアによるウクライナ侵攻は、現地の人びとの暮らしを破壊するだけでなく、地球規模での混乱をもたらしました。8ヶ月が過ぎようとする現時点でも解決の見通しはまだありません。混乱する世界をどのように理解したら良いのでしょうか。本フォーラムでは、コンパクトな解説をいくつも積み上げていきます。日頃、解説されている事象の背後にあることを前景化し、画面を入れ替えるように、総合的に現代世界に接近してみましよう。

日時：令和4(2022)年

12月10日(土)

14:00～17:00〈各報告15分〉

場所：日本学術会議 講堂 + オンライン配信

〒106-8555 東京都港区六本木7-22-34

東京メトロ千代田線「乃木坂駅」下車、5番出口
より徒歩1分

参加費無料

事前参加申込制

どなたでもご参加いただけます。

〈参加申込方法〉

参加をご希望の方は、下記URLまたはQRコードより事前申込みをお願いします(対面・オンラインとも)。

<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0110.html>



主催：日本学術会議

企画：地域研究委員会・地域研究基盤強化分科会

共催：JCASA(地域研究学会連絡協議会)／協力：JCAS(地域研究コンソーシアム)

内容に関するお問い合わせ先：地域研究委員会委員長 小長谷有紀 E-mail: [yuki-konagaya\(a\)jsps.go.jp](mailto:yuki-konagaya(a)jsps.go.jp) ※(a)を@にしてお送りください。

その他お問い合わせ先：日本学術会議事務局企画課学術フォーラム担当 電話：03-3403-6295

挨拶・趣旨説明

小長谷 有紀(日本学術会議第一部会員、独立行政法人日本学術振興会・監事)

ソ連帝国の複雑な影：ロシア・ウクライナ・中央アジア

宇山 智彦(日本学術会議第一部会員、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター・教授)

ロシアから見たウクライナ報道

藤原 潤子(神戸市外国語大学・准教授)

ロシア・ウクライナ紛争下におけるユダヤ・ファクターの変遷

赤尾 光春(国立民族学博物館・特任助教)

中国の戸惑いと東アジア情勢への影響

川島 真(日本学術会議連携会員、東京大学大学院総合文化研究科・教授)

インド：「漁夫の利」戦略の展開とクアッドへの影響

中溝 和弥(日本学術会議連携会員、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・教授)

地政学的変化の中のトルコ外交

澤江 史子(上智大学総合グローバル学部・教授)

EUとNATOから見たロシア・ウクライナ戦争

東野 篤子(筑波大学人文社会系・教授)

アフリカ諸国の複雑な態度の背景にあるもの

武内 進一(東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター・教授／第一部元連携会員)

21世紀の紛争と難民受け入れ政策の変化

錦田 愛子(慶應義塾大学法学部・准教授)

総合討論

司会 小長谷 有紀

討論者 田辺 新一(日本学術会議第三部会員、早稲田大学創造理工学部・教授)

栗田 抄苗(一般財団法人日本エネルギー経済研究所・研究主幹)

閉会挨拶

春山 成子(日本学術会議第三部会員、三重大学・名誉教授)

「持続的な畜産経営を目指したスマート技術と今後の展望」

令和4年

12/11(日)

13:00~17:30

オンライン開催
参加費無料
事前参加申込制

地球規模で進行している食料危機への対策として、人類が直接喫食できないため未利用となりがちな植物資源である麦藁や稲藁などの粗飼料を活用して生乳や乳製品などの高品質な食料を生産できる家畜の増殖・増産、すなわち畜産業を継続性のある産業として維持・経営していくためには、ロボット技術やIoT・AI技術などの先端デジタル技術を駆使してパラダイムシフト的に作業の効率化や生産性の向上を実現する「スマート畜産」の研究開発と普及が欠かせず、このことは食料安全保障上の視点からも喫緊の重要な社会的課題となっています。本公開シンポジウムでは、我が国における最新のスマート畜産に焦点を絞り、最新の導入事例を紹介しながら現在研究開発中の先端技術や展望について議論し、我が国に最適化された今後のスマート畜産の具体的な将来像を考える機会としたい。

総合討論では、スマート農業技術の社会実装に向けた取り組みの一環として、農林水産省が推進している「スマート農業実証プロジェクト」の概要を紹介し、畜産分野においてスマート技術の普及を担っている皆様から技術的な面での要望を伺い、検討する場を設けます。普及・指導を担っている皆様には、ぜひ、「お申し込みフォーム」の「技術検討の議題」欄にこの場で検討したいスマート農業技術と検討すべき課題や要望をご記入下さい。

- 13:00 開会挨拶
三森 眞琴（農研機構）
- 13:10 「国内外のスマート畜産技術の動向」
池口 厚男（宇都宮大学）
- 13:40 「スマート技術による効率的なミツバチ管理」
荻原 麻理（農研機構）
- 14:00 「AIカメラ等を用いた豚及び鶏の飼育管理技術」
小澤 真（鹿児島大学）
- 14:20 「繋ぎ牛舎で利用されている搾乳システムの改良技術」
町田 一幸（オリオン機械株式会社）
- 14:40 「酪農場での作業効率化等に貢献するスマート統合システム」
石川 志保（酪農学園大学）
- 15:00 「堆肥化ロボットを利用したスマート家畜ふん尿処理技術」
中本 武範（ARAV株式会社）
- 15:20 休憩
- 15:30 総合討論
座長：山下 恭広（日本学術会議連携会員、農研機構）
コメンテーター：天羽 弘一（農研機構）
後藤 貴文（日本学術会議連携会員、鹿児島大学）
吉澤 緑（日本学術会議連携会員、宇都宮大学名誉教授）
木村 直子（日本学術会議連携会員、山形大学）
平子 誠（農研機構）
- 17:30 閉会挨拶
眞鍋 昇（日本学術会議会員、大阪国際大学、東京大学名誉教授）

参加申込みURL：<https://prd.form.naro.go.jp/form/pub/naro01/smart-nougyou2022>
(締切(11/28(月)))

主催：日本学術会議食料科学委員会畜産学分会、農研機構畜産研究部門
共催：公益社団法人日本畜産学会、農業施設学会、日本畜産学アカデミー
後援：全国農業協同組合連合会

問い合わせ先 農研機構畜産研究部門
高度飼養技術研究領域長 山崎 信
Tel: 029-838-8673 FAX: 029-838-8606
E-mail: yamazaki(at)affrc.go.jp
※メール送信の際は(at)を@に置き換えてください。



日本学術会議 公開シンポジウム



2022年12月11日(日)
13:00~17:30

- ◆ オンライン(ZOOMウェビナー)開催
- ◆ 定員 500名
- ◆ 参加費 無料(申込締切12月4日(日))

文化財保護に
未来はあるか
—日本の文化財の
これからを考える—

長年にわたって日本各地で生まれ、伝えられてきた文化財は、過去からつながるこの地で人々が生きて行く拠り所となるかけがえのない存在である。

文化財を取り巻く状況が大きく変わり始めた今日、文化財保護に明るい未来は描けるのか。本シンポジウムでは、文化財防災、改正文化財保護法、地域社会総がかりの取組、更には世界的潮流などの視点から、地域、日本、そして人類の未来にも深くかわる文化財保護の今後を展望する。

PROGRAM

＜進行＞ 宮路淳子(日本学術会議連携会員、奈良女子大学)

趣旨説明 福永伸哉(日本学術会議連携会員、大阪大学)

基調報告 「持続可能な発展と文化遺産」 星野有希枝(文化庁)

個別報告1 「大規模災害から文化財をまもるために望まれる方向性」 菊地芳朗(日本学術会議連携会員、福島大学)

個別報告2 「平成30年の文化財保護法改正が示す文化財防災の方向」 岡田健(奈良大学)

個別報告3 「法改正と文化財の未来」 杉本宏(京都芸術大学)

個別報告4 「地域主体の文化遺産保存活用—岡山県真庭市の取組みから—」 新谷俊典(真庭市教育委員会)

総合討論 ＜コーディネーター＞ 福永伸哉、松本直子(日本学術会議連携会員、岡山大学)

閉会の辞 芳賀満(日本学術会議第一部会員、東北大学)

◆ 申込方法 右記URL・QRコードのフォームに必要事項を記入し、送信してください。 <https://forms.gle/d53MD5c5XM27oH2PA>

◆ 参加方法 申込時のメールアドレスに、シンポジウムの参加URLと資料送付の方法をお送りします。

◆ 注意事項 当日は開始10分前から参加できます。※途中入退室自由

開催前日までに申込受付完了メール、参加URLのメールが届かない場合は、事務局メールアドレス(ridc@okayama-u.ac.jp)までご連絡ください。



主催: 日本学術会議史学委員会 文化財の保護と活用に関する分科会 共催: 岡山大学文明動態学研究所

後援: 一般社団法人日本考古学協会、考古学研究会、独立行政法人国立文化財機構文化財防災センター

あらためて高大接続を考える ——有識者との議論を通じて——

日本学術会議「高大接続を考える分科会」では、2020年10月より、日本における高大接続の現状を、入学者選抜に限定せず、教科とディシプリンの関係や学習者の移行といった視点を入れて多面的に把握する作業を続けてきました。その中で「セグメント化」というキーワードが浮かび上がっています。本シンポジウムでは、分科会におけるこれまでの議論をご紹介しますとともに、各方面からのご意見をいただきたいと思います。

【プログラム】

2022 年
12 月 12 日 (月)

18:00-20:00

Zoom による
オンライン開催

- 18:00-18:05 開会の挨拶・趣旨説明
(中村高康・日本学術会議連携会員)
- 18:05-18:30 分科会における議論の報告
(吉田 文・日本学術会議会員)
- 18:30-19:00 登壇者からの意見 (各10分)
荒井克弘 (東北大学名誉教授・大学入試センター
名誉教授)
室伏きみ子 (お茶の水女子大学名誉教授・前学長)
恩田 徹 (京都大学大学院教育学研究科特任教授/
元・京都市立堀川高等学校 校長)
- 19:00-19:50 登壇者・参加者との討議
- 19:50-20:00 総括と閉会の挨拶
(吉田 文・日本学術会議会員)

司会：松下佳代 (日本学術会議会員)



お申込み：<https://forms.gle/4oxWybyiYcP7fEuJA>

地名標準化の現状と課題

地名データベースの構築と
地名標準化機関の設置に向けて

2022.12/18(日)

13:00-17:00

参加無料

定員
300名

オンライン開催 (どなたでも参加いただけます)

事前にリンク先よりご登録をお願いいたします。

https://ritsumei-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_nOOZmlwzS4GaYqgkm1dlhw



近年、国民生活に深く関わる地名をめぐって、様々な問題が発生している。とりわけ、メディアや学校教育、あるいは外国人観光客の増加に対応した地名の外国語表記の不統一の問題が顕在化している。また、社会のデジタルトランスフォーメーション (DX) が展開する中で、公的機関等で登録・公開され、様々な場面で参照される住所データの扱いも議論され始めている。さらに、人文・社会科学に期待される総合知の実現においても、現在そして過去の地名・住所を含めた地名データベース (地名辞書) は、学術の基盤情報の1つとして位置付けられる。

加えて、各国の地名標準化の国際的な規範について助言する機関である国連地名専門家グループ (UNGEGN) では、地名の商業化回避、現地以外から与えられた地名であるエキゾニムの使用や地名の文化的価値などが議論されている。しかし、わが国には、このような地名に関する国内そして国際的な問題に対応できる機関や研究組織が実質的には存在していない。そこで、本公開シンポジウムでは、日本における地名の標準化をめぐる課題を明らかにするとともに、その対応策を検討する。

主催：日本学術会議地域研究委員会地域情報分科会・
地球惑星科学委員会 IGU 分科会

共催：科学研究費補助金 (挑戦的 (開拓)) 「学際的な研究基盤となる日本の「GIS 地名辞書」の開発に関する地理学的研究」 (研究代表者 矢野桂司)

後援：地理学連携機構、公益社団法人日本地理学会、一般社団法人人文地理学会、一般社団法人地理情報システム学会、日本地図学会

お問い合わせ先：日本学術会議地域研究委員会・地域情報分科会委員長
矢野桂司 (立命館大学) yano@lt.ritsumei.ac.jp



「大日本道中細見記」BL_01_0098 大英図書館所蔵

《総司会》矢野桂司 (立命館大学文学部教授 日本学術会議第一部会員)

山田育穂 (東京大学空間情報科学研究センター教授)

- | | |
|-------|---|
| 13:00 | 趣旨説明
岡本耕平 (愛知大学文学部教授) |
| 13:10 | 海外での地名標準化の動向
渡辺浩平 (帝京大学文学部教授 日本学術会議連携会員) |
| 13:30 | 地名の公的化のプロセス
野々村邦夫 (一般財団法人日本地図センター顧問) |
| 13:50 | 地方自治における地名をめぐる諸課題
荒見玲子 (名古屋大学大学院法学研究科教授) |
| 14:10 | アドレス・ベース・レジストリの推進について
平本健二 (デジタル庁データ戦略統括) |
| 14:30 | 休憩 |
| 14:40 | 地名から見る地域の歴史と漢字表記の課題
狩俣繁久 (琉球大学名誉教授 日本学術会議連携会員) |
| 15:00 | 地名の情報学とデータ駆動型研究の展開
北本朝展 (ROIS-DS 人文学オープンデータ共同利用センター センター長) |
| 15:20 | 教科書における地名表記
本田智比古 (帝国書院編集部企画室課長) |
| 15:40 | 規範なき地名の取扱いとその影響
今尾恵介 (著述業) |
| 16:00 | 休憩 |
| 16:10 | 総合討論
〈司会〉高木彰彦 (九州大学名誉教授) |
| 16:50 | 閉会挨拶
春山成子 (三重大学名誉教授 日本学術会議第三部会員) |
| 17:00 | 閉会 |

日本学術会議 公開シンポジウム

コロナ禍を踏まえた 新たな国土形成計画の課題

主催：日本学術会議地域研究委員会人文・経済地理学分科会

後援：地理学連携機構、公益社団法人日本地理学会、一般社団法人人文地理学会、経済地理学会

問合せ先：日本学術会議人文・経済地理学分科会委員長 松原 宏 E-mail matubara@fpu.ac.jp

■開催趣旨：

2022年7月に、「国土形成計画」（全国計画）の中間とりまとめが公表された。そこでは、「地域生活圏」、「スーパーメガリージョン」、「令和の産業再配置」が、3つの柱として取り上げられている。

本シンポジウムでは、次期国土形成計画の3本柱について、人文・経済地理学のこれまでの研究成果をもとに、それぞれの内容を検討するとともに、コロナ禍を踏まえた国土のあるべき姿に関する議論を喚起し、新たな国土形成計画のあり方を考えたい。

■日時：

2022年 12月 23日（金）13:00-16:00

■オンライン開催 参加無料 どなたでも参加いただけます



（事前登録が必要です。下記URLもしくは右上のQRコードへアクセスし、フォームを送信してください。）

<https://forms.gle/ooymG7yPvdirrG5HA>

■プログラム 総合司会 近藤章夫（日本学術会議連携会員、法政大学経済学部教授）

13:00-13:10 開会あいさつ

山本佳世子（日本学術会議連携会員、電気通信大学大学院情報理工学研究科教授）

13:10-13:30 「新たな国土形成計画の策定に向けて」

松家新治（国土交通省国土政策局総合計画課課長）

13:30-13:50 「デジタル田園都市国家構想と地域生活圏」

作野広和（島根大学教育学部教授）

13:50-14:10 「スーパーメガリージョンは地域を共振・活性化するか」

浜口伸明（日本学術会議連携会員、神戸大学経済経営研究所教授）

14:10-14:30 「産業立地の動向と持続可能な産業再配置」

鹿嶋 洋（熊本大学大学院人文社会科学部教授）

14:30-14:40 休憩

14:40-15:00 「コロナ禍を踏まえた観光のあり方について」

吉田道代（日本学術会議連携会員、和歌山大学観光学部教授）

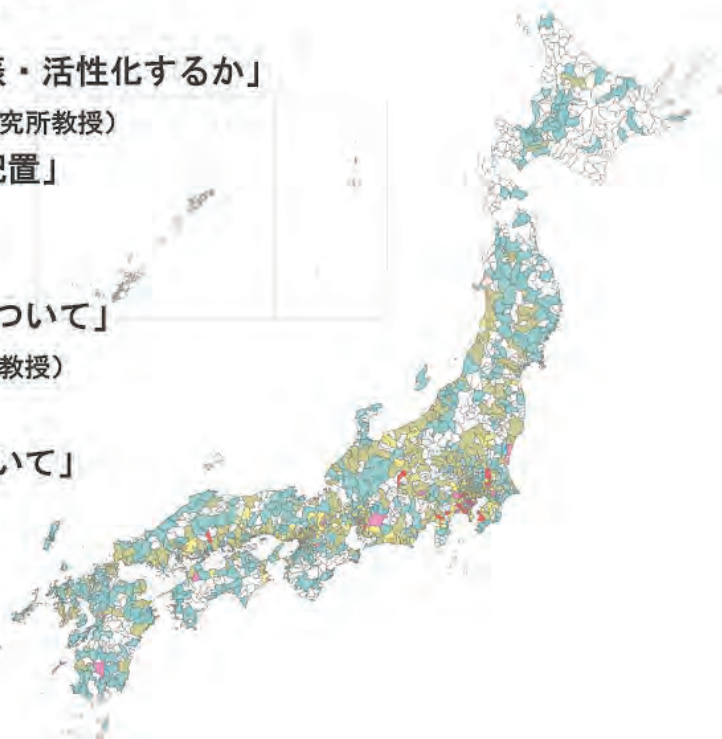
15:00-15:55 総合討論

問題提起「新たな国土形成計画のあり方について」

松原 宏（日本学術会議第一部会員、
福井県立大学地域経済研究所特命教授）

15:55-16:00 閉会あいさつ

森本 泉（日本学術会議連携会員、
明治学院大学国際学部教授）



新興・再興感染症の 克服に挑む ～COVID-19との闘いを経て～

会期

2023年1/13金 13:00～17:00

場所

日本学術会議講堂・ハイブリッド

参加費
無料

プログラム

座長

一條 秀憲 日本学術会議連携会員、
東京大学大学院薬学系研究科 教授
深見 希代子 日本学術会議連携会員、
東京薬科大学 名誉教授

13:00 開会の辞

一條 秀憲 日本学術会議連携会員、
生物系薬学分子科 委員長
佐々木 茂貴 公益社団法人 日本薬学会 会頭

講演

13:10

COVID-19感染症 重症化／
合併症の基礎メカニズム解明から創薬応用へ
1 今井 由美子 日本学術会議連携会員、医薬基盤・健康・栄養研究所
プロジェクトリーダー

13:45

抗ウイルス薬開発の新たな展開：
次のパンデミックに対する更なる備え
2 井上 純一郎 日本学術会議連携会員、
東京大学医科学研究所 特命教授

14:20

新興感染症とmRNAワクチン
3 石井 健 東京大学医科学研究所
感染・免疫部門ワクチン科学分野 教授

休憩10分

15:05

COVID-19がもたらした
我が国のレギュラトリー・サイエンスの進歩
4 宇津 忍 医薬品医療機器総合機構 理事(技監)

15:40

サイレントパンデミックとしての
薬剤耐性菌問題(AMR)とワンヘルスアプローチ
5 舘田 一博 東邦大学医学部微生物・感染症学講座 教授

16:15

人獣共通感染症の克服を目指して
一次のパンデミックにどう備えるかー
6 喜田 宏 北海道大学人獣共通感染症国際共同研究所
特別招聘教授・統括

16:50 閉会の辞

長野 哲雄 日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授、
日本生命科学アカデミー 監事
山崎 真巳 日本学術会議会員、
千葉大学大学院薬学研究院 教授

司会・実行委員長

赤羽 悟美

日本学術会議連携会員、東邦大学医学部生理学講座 教授

シンポジウム概要

<https://www.scj.go.jp/ja/event/index.html>

連絡先

2022biopharm@ml.toho-u.jp

事前申し込み

<https://forms.gle/rtBI2Fpa3JtzP2NZ7>



【主催】日本学術会議 薬学委員会 生物系薬学分子科
公益社団法人 日本薬学会
【共催】日本生命科学アカデミー
【後援】公益社団法人 日本生化学会
公益社団法人 日本薬理学会
一般社団法人 日本感染症学会

公益社団法人日本薬学会
The Pharmaceutical Society of Japan

日本学術会議
SCIENCE COUNCIL OF JAPAN